

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(本郷小学校)

## 平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
本郷小	下回った	下回った	
埼玉県	68	62	
全国	67.2	62.5	

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	本郷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	93.3	94.4	93.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	83.3	83.1	81.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	96.7	91.7	90.5
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	26.6	12.4	12.6
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	80	73.4	70.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	76.7	80.9	77.4
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	90	83.0	78.8
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	73.4	53.7	52.5
教科への関心	国語の勉強は好きだ	70	61.6	61.5
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	94.0	92.8
	算数の勉強は好きだ	73.4	61.2	61.4
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96.6	94.1	93.3
	英語の勉強は好きだ	80	69.6	69.3
	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う	63.3	54.1	52.5
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	90	83.0	78.8
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	76.7	68.4	63.7
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	80	79.5	74.4
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	86.6	84.7	81.8
その他	自分には、よいところがあると思う	90	85.6	83.5
	将来の夢や目標をもっている	96.6	82.7	81.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	96.7	96.3	95.9
	今住んでいる地域の行事に参加している	83.4	56.8	57.8

### 【質問紙分析】

- ・ほとんどの項目で県、全国の平均を上回っていた。特に、教科への関心は高く、現在学んでいることが将来役に立つと考えている児童が国語 100%、算数 96.6%と平均よりも高かった。
- ・朝食を毎日食べている児童が 93.3%で、埼玉県 (94.4%) と全国 (93.9%) の平均を下回った。
- ・「学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習に繋ることができている」と答えた児童が 76.7%で、埼玉県 (80.9%) と全国 (77.4%) の平均を下回った。レディネステストやタブレット (ドリルパーク) を活用して、「苦手なところを学び直す」ことを今年度の取り組みとして実施している。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

#### 【国語】

##### 「よかった点」

☆全体的に無回答が少ない。

○□(三)(3) 正答率 96.7%

「比べて」「期間」など日常的に使う漢字については定着しており、継続して取り組んでいるドリルや練習によると考えられる。

○□(一) 正答率 90.0%

資料の中に「効果」「種類」という解答に直接使われる単語が入っていればそれを見つけ、解答に結び付けられる。

○□(三)(2) 正答率 76.7%

身近なことについて書いてある短い文章であれば読み取ることができる。

##### 「課題」

☆全体的に作文力に課題がある。

●③ (二) 正答率 6.7%

「あなたが～さんなら」と人の立場から文章を書くことができていない児童が多かった。いくつかのカードから読み取ったり、たくさんの情報の中から必要な情報を選択したりしながら、自分なりの文を組み立てることができていなかった。

●① (二) 正答率 10.0%

「問題点とその解決方法」の 2 つを書かなければならない問題に対して、解答の文にどちらかしか書いていない児童が多い。

●□(四) 正答率 20.0%

前出の□(二)と同じように「①食事と運動の両方についてのわかったこと②それをもとに自分ができること」など複数の条件を満たす作文ができていない。

#### 【算数】

##### 「よかった点」

○1(1) 正答率 86.7%

表の見方について理解できており、いくつかの情報から空欄の数値を予想することができていた。比例との区別がついている。

○3(3)① 正答率 86.7%

( ) カッコのついている計算の順序について理解できており、正確に計算することができる児童が多い。

○無回答が少なかった。

### 「課題」

● ②(4) 6.7%

三角形の面積を求めるためには、底辺と高さがわかれば求められるのだが、他の辺の長さが提示されていることで惑わされ、正しい面積を求められない児童が多くみられた。辺の長さだけで比べている児童も多く、(2)と誤答した児童が半数近くいた。

● ③(4)正答率 6.7%

わり算の筆算はできるが、ひっ算の意味について説明ができない児童が多かった。

● ②(3)正答率16.7%

正三角形の内角の和が理解できていない児童が多い。いくつかの作業を通しての問いでは、問題の意味が正確に伝わっていなかったようだった。三角形を切って開いた図形を想像することができなかった。

### 課題への取組・改善策

- ・ 問題に対して、決められた条件に合った解答ができていないことから、何について答えなければならぬのかを把握して解答できるよう意識させることが必要であると考え。それには、日頃から問題を注意深く読み取って何について聞かれているかを確認したり、長文問題に取り組みせたりする必要があると考える。日記・読書・振り返りなどを現在も行っている取組を継続して行ったうえで、条件に合った文章をまとめていけるようアウトプットの表現力を高める指導をしていきたい。
- ・ 読解問題では、単語だけを頼りに答えを見つけようとする傾向が見られるため、内容をしっかりと理解しながら、聞かれたことに対しての解答を自分なりにまとめられるよう習慣つけることが求められる。読書の量や質を高めながら、日常の会話についても5W1Hを意識させた言語活動を行っていきたい。
- ・ 自分のわかったことや意見をまとめる活動を意識的に増やし、経験の積み重ねをしていく。また、グッドモデルを提示して、よい文章に触れる機会を増やしていく。
- ・ 国語においても算数においても、問題文の情報量が多い中、必要な情報を取捨選択ができず混乱してしまっている児童が多いと感じた。基本的な練習問題には日頃から取り組んでいるので継続しつつ、さらに中上位の児童には系統性を考慮した応用的な問題に取り組ませしていきたい。
- ・ 言葉と数を使って、考えを説明することが難しい児童が多い。図形の構成要素や性質をもとに考察したり、問題の解決のために必要な数量を見出したりしていくことができるような指導を工夫する必要がある。そのために図形と式を関連付けて説明させるように授業の中でも説明の仕方を定着させたい。
- ・ 算数の学習に向かう態度はまじめなので、さらに主体的に取り組めるよう声かけや見届けを担当と少人数指導担当、PJ 教員で行っていきたい。また、ICT の効果的な活用についても学校全体で研修を積み、授業改善や個別最適の学びに繋げるように教師力を高めたい。

